

平成30年度 球磨郡公立多良木病院企業団「病院指標」

医療法における病院等の広告規制について(厚生労働省)

1. 年齢階級別退院患者数
2. 診断群分類別患者数等（診療科別患者数上位5位まで）
3. 初発の5大癌のUICC病期分類別ならびに再発患者数
4. 成人市中肺炎の重症度別患者数等
5. 脳梗塞の患者数等
6. 診療科別主要手術別患者数等（診療科別患者数上位5位まで）
7. その他（DIC、敗血症、その他の真菌症および手術・術後の合併症の発生率）

■はじめに

病院指標とは、DPCデータをもとに厚生労働省が定めた全国統一の定義と形式に沿って資料を作成するもので、住民の皆様にご来院の際に本院の特徴や地域医療（急性期医療）の現状を理解していただく為に、情報を公開するものです。集計条件として、平成30年度に本院を退院された患者さんのデータを対象に作成しています。但し、自動車賠償責任保険や労災保険、地域包括ケア病棟や緩和ケア病棟のみの入院、自費、24時間以内に死亡された患者さん等のデータは集計対象外となります。集計期間内に同一人物が複数回入院された場合は、述べ患者数として集計しています。患者数が10人未満の場合は“-”で表記しています。

■ 1. 年齢階級別退院患者数

年齢区分	0～	10～	20～	30～	40～	50～	60～	70～	80～	90～
患者数	253	37	8	27	52	96	235	335	713	348

2018年度に本院を退院した患者様の人数を10歳刻みで年齢階級別に集計したものです。

DPCデータにおいて、2018年度に退院した患者数は2104名です。60歳以上に占める割合が全体の77.5%、80歳以上が50.4%でした。2017年度は60歳以上81.1%、80歳以上52.2%、2016年度は60歳以上76.0%、80歳以上が48.1%となっており、高齢の患者様が多くを占めています。但し、割合としては2018年度は2017年度に比べて若干減少に転じました。10歳未満の割合も12.0%と多く見られます。2017年度の9.9%から上昇しています。但し、10～50歳代の患者様は10.5%と少なく、2017年度の9.0%からは上昇しているものの球磨地域の高齢化が伺えます。

尚、この数には、本院の地域包括ケア病棟や緩和ケア病棟のみに入院された数は含まれていません。

■ 2. 診断群分類別患者数等（診療科別患者数上位5位まで）

【内科】

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数(本院)	平均在院日数(全国)	転院率	平均年齢	患者用パス
040081xx99x00x	誤嚥性肺炎	95	24.84	20.92	11.6	88.3	-
050130xx99000x	心不全	81	27.68	17.66	7.4	85.5	-
110310xx99xx0x	腎臓または尿路の感染症	54	20.35	12.58	7.4	85.9	-
0400801499x013	肺炎等（市中肺炎かつ75歳以上）A -DROP スコア3	19	25.63	19.87	5.3	88.6	-
030400xx99xxxx	前庭機能障害（めまい症等）手術なし	19	4.58	5.1	0.0	72.4	-

内科では、総合診療科として広範囲の診療に関わっています。また、循環器・呼吸器系も含めたりハビリテーションにも力を入れ、地域包括ケアシステムを念頭に訪問診療等も行っております。

【外科】

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数(自院)	平均在院日数(全国)	転院率	平均年齢	患者用パス
060160x001xxxx	鼠径ヘルニア（15歳以上）（ヘルニア手術）	16	6.13	4.96	0.0	70	-
060340x03x00x	胆管（肝内外）結石，胆管炎 限局性 腹腔膿瘍手術等	14	13	10.08	0.0	87.2	-
060210x99000x	腸閉塞（ヘルニアの記載なし）	13	8.08	8.95	0.0	73.5	-
110310x99x0x	腎臓または尿路の感染症	12	14.33	12.58	0.0	74.1	-
060380xxxx0xx	ウイルス性腸炎	11	6.18	5.42	9.1	60.8	-

胃・十二指腸・肝・胆・膵・結腸などの消化器系疾患を中心に外科全般にわたり診療しています。高齢の方の入院が多いですが、平均在院日数は全国平均と比べても大きくは変わらないようです。
次に、結腸悪性腫瘍の手術あり、手術なしなどが続いています。

【消化器科】

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数(自院)	平均在院日数(全国)	転院率	平均年齢	患者用パス
060100x01xx0x	小腸大腸の良性疾患（良性腫瘍を含む） 内視鏡的大腸ポリプ・粘膜切除	70	2.34	2.67	0.00	69.2	-
060340x03x00x	胆管（肝内外）結石，胆管炎 限局性 腹腔膿瘍手術等	33	8.76	10.08	0.00	74.2	-
060130x99000x	食道，胃，十二指腸，他腸の炎症（その他 良性疾患）	24	6.54	7.4	4.17	73	-
060340x99x00x	胆管（肝内外）結石，胆管炎 手術処 置等なし	14	6.93	9.81	0.00	79.1	-
060190x99x0xx	虚血性腸炎	14	8.5	8.93	0.00	75	-

大腸ポリプや胆管結石などの入院が多く、内視鏡による手術を積極的に実施しています。概ね平均的（やや短い）入院日数となっています。

【整形外科】

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数(自院)	平均在院日数(全国)	転院率	平均年齢	患者用パス
160800x01xxxx	股関節大腿近位骨折（人工骨頭挿入 術）	67	53.48	26.3	11.94	86.3	-
160760x97xxxx	前腕の骨折（手術有）	35	11.46	5.68	5.71	64.7	-
070230x01xxxx	膝関節症（変形性を含む）（人工関節 再置換術等）	14	54.14	24.26	0.00	80.1	-
160820x02xxxx	膝関節周辺の骨折・脱臼 骨折観血的 手術 肩甲骨，上腕，大腿等	10	73	30.1	0.00	75.2	-
160980x99x0xx	骨盤損傷（手術処置等なし）	-	-	19.32	-	-	-

高齢者に見られる転倒や骨粗鬆症からの骨折が多く、また外傷性疾患や変形性膝関節症による手術など整形外科全般の診療を行っています。手術からリハビリテーションまで実施し退院となる患者さんが多い為、入院日数は長くなっています。

【小児科】

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数(自院)	平均在院日数(全国)	転院率	平均年齢	患者用パス
040090xxxxxx0x	急性気管支炎, 急性細気管支炎, 下気道感染症 (その他)	83	3.59	6.19	1.20	1.3	-
060380xxxxx0xx	ウイルス性腸炎	72	2.82	5.42	2.78	2.6	-
040070xxxxx0xx	インフルエンザ, ウイルス性肺炎	22	3.36	6.14	9.09	2.1	-
0400801199x00x	肺炎等 (1歳以上15歳未満)	16	3.5	5.71	0.00	2.1	-
100380xxxxxxxx	体液量減少症 (脱水症等)	15	2.67	9.12	0.00	2.9	-

全体的に全国の在院日数より短い入院となっています。自宅での観察を十分に行ってもらうことで入院による家族の負担軽減にもなっています。平均年齢が低い為、休日・夜間等での緊急入院も多く見られます。

【眼科】

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数(自院)	平均在院日数(全国)	転院率	平均年齢	患者用パス
020110xx97xxx0	白内障、水晶体の疾患 (手術有、片眼)	-	-	2.84	-	-	-

入院の多くは白内障手術を目的としたものです。平成30年度は地域包括ケア病棟へ入院のうえ手術を行っておいりましたので、今回の数値計上対象とはなっておりませんが、100件超の患者様の入院・手術等を行っております。

■ 3. 初発の5大癌のU I C C病期分類並びに再発患者数

	初発						再発	病期分類基準※	版数
	Stage I	Stage II	Stage III	Stage IV	Stage V	不明			
胃癌	12	4	1	4	0	0	1	1	7.8
大腸癌	11	6	8	5	0	0	8	1	7.8
乳癌	1	4	0	0	0	0	1	1	7.8
肺癌	1	0	2	3	0	0	4	1	7.8
肝癌	0	0	0	0	0	0	0	1	8

※ 1：U I C C T N M分類、2：癌取り扱い規約

現在、日本で最も罹患率の高い上記の5つのがんの病期分類(ステージ)と再発の症例数を集計したものです。

初発のステージ(Stage)は、Stage I からIVへ大きくなるにつれ、がんの進行を示しています。

5大癌の中で最も多いのが大腸癌、次いで胃癌でした。

このデータは、D P Cデータを集計したものであり、当院の地域包括ケア病棟や緩和ケア病棟のみに入院された数は含まれない為、実数より少なく表示されています。

■ 4. 成人市中肺炎の重症度別患者数等

	患者数	平均在院日数	平均年齢
軽症	5	7	54.6
中等症	66	20.58	82.2
重症	37	23.14	85.8
超重症	11	28.64	90.1

市中肺炎とは、日常生活の中でかかる肺炎のことです。

D P Cデータの入院契機病名および医療資源を最も投入した傷病名が、肺炎レンサ球菌やインフルエンザ菌、その他細菌性による肺炎等に該当するものとなります。誤嚥性肺炎は除きます。

重症度分類は、A-DROPスコアにより計上しています。これは、日本で使われている市中肺炎の重症度を判定するものです。次の5項目のうち1項目に該当すれば1点、2項目で2点というように計算し点数をつけます。5点満点です。

A (Age=年齢)：男性70歳以上・女性75歳以上

D (Dehydration=脱水)：BUN 21mg/dL以上または脱水あり

R (Respiration=呼吸)：SpO2 90%以下またはPaO2 60Torr以下

O (Orientation=見当識)：意識障害あり

P (Pressure=血圧)：収縮期血圧 90mmHg以下

軽症0点、中等症1～2点、重症3点(意識障害(ショック)であれば1点でも重症)、超重症4～5点。

高齢になるにつれ重症度が高くなり入院日数も長くなっています。

前年度と比較すると、軽症・中等症が減少し、重症・超重症の市中肺炎が増加しています。

■ 5. 脳梗塞の患者数等

発症日から	患者数	平均在院日数	平均年齢	転院率
3日以内	51	31.43	78.5	0.08
その他	14	51.21	76.8	0.07

高齢の方の入院が多い為、脳梗塞は、肺炎、心不全、骨折等とともに入院の契機となる疾患の1つです。当院では、入院直後からリハビリテーションを開始し、完了してから退院されることが多い為、入院日数は長くなっています。必要に応じて転院も行います。脳梗塞の発症が3日以内での入院の場合、入院期間も短くなっています。後遺症等ありますので早めの受診が必要です。

■ 6. 診療科別主要手術別患者数等（診療科別症例数上位5位まで）

【内科】

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K664	胃瘻造設術（経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む）	-	-	-	-	-	-
K654	内視鏡的消化管止血術	-	-	-	-	-	-
K688	内視鏡的胆道ステント留置術	-	-	-	-	-	-
K386	気管切開術	-	-	-	-	-	-
K4741	乳腺腫瘍摘出術（長径5cm未満）	-	-	-	-	-	-

内科では、総合診療科として広範囲の診療に関わっています。内科入院であっても他診療科とも連携をとり必要な手術を行っています。

【外科】

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K6335	鼠径ヘルニア手術	19	0.84	4.00	0.00	63.4	-
K688	内視鏡的胆道ステント留置術	26	4.50	15.50	0.00	83.9	-
K7193	結腸切除術（全切除、垂全切除又は悪性腫瘍手術）	12	21.92	31.42	0.00	81.9	-
K672-2	腹腔鏡下胆嚢摘出術	12	3.58	6.08	0	67.0	-
K664	胃瘻造設術（経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む）	11	13.64	20.82	0	83.0	-

胃・十二指腸・肝・胆・膵・結腸などの消化器系疾患を中心に外科全般にわたり診療しています。予定手術に加えて、緊急性が高い場合に関しては夜間・休日等でも緊急手術を行っています。開腹手術や腹腔鏡下手術、内視鏡手術等を行っています。

【消化器科】

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K7211	内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術（長径2cm未満）	80	0.28	1.19	0.00	69.6	-
K688	内視鏡的胆道ステント留置術	49	5.14	12.31	0.00	77.6	-
K6534	内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術（その他）	-	-	-	-	-	-
K6532	内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術（早期悪性腫瘍粘膜下層）	-	-	-	-	-	-
K708-3	内視鏡的膵管ステント留置術	-	-	-	-	-	-

大腸ポリープや胆管結石などの入院が多く、内視鏡による手術を積極的に実施しています。内視鏡的大腸ポリープ粘膜切除術は殆どが予定での入院です。

【整形外科】

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K0461	骨折観血的手術（大腿）	60	1.98	51.18	0.08	86.6	-
K0811	人工骨頭挿入術（股）	19	4.68	57.42	0.16	85.2	-
K0462	骨折観血的手術（前腕）	19	0.84	18.63	0.05	76.9	-
K0821	人工関節置換術（膝）	15	5.13	46.87	0.00	80.5	-
K0483	骨内異物（挿入物を含む）除去術（前腕）	14	1.36	5.43	0.00	67.9	-

高齢者に見られる転棟や骨粗鬆症からの骨折が多く、また外傷性疾患や変形性膝関節症による手術など整形外科全般の診療を行っています。緊急性が高い場合には夜間・休日等でも緊急手術を行っています。手術からリハビリテーションまで実施し退院となる患者さんが多い為、入院日数は長くなっています。

【眼科】

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数(自)	平均在院日数(全)	転院率	平均年齢	患者用パス
K2821口	水晶体再建術（眼内レンズを挿入する場合）（その他）	-	-	-	-	-	-

入院の多くは白内障手術を目的としたものです。手術は予定入院で行い、入院日に手術施行し術後2日で退院となります。昨年と件数はほぼ同じでした。

■7. その他（DIC、敗血症、その他の真菌症および手術・術後の合併症の発生率）

DPC	傷病名	入院契機	症例数	発生率
130100	播種性血管内凝固症候群	同一	2	0.10%
		異なる	0	0.00%
180010	敗血症	同一	7	0.33%
		異なる	0	0.00%
180035	その他の真菌感染症	同一	0	0.00%
		異なる	0	0.00%
180040	手術・処置等の合併症	同一	14	0.67%
		異なる	1	0.05%

「医療資源を最も投入した傷病名」と「入院の契機となった傷病名」が対応するコードに該当した場合を「同一」、そうでない場合（入院後に発症）を「異なる」としています。「発生率」は各症例数の全退院患者数に対する割合です。手術や処置、検査等を行う際には細心の注意を払って診療を行っています。起こりうる合併症については、事前に本人・家族の方々に説明をした上で同意を得て実施しています。

播種性血管内凝固症候群は、様々な重症の基礎疾患のために過剰な血液凝固反応活性化が生ずるため生体内の抗血栓性の制御能が十分でなくなり、全身の細小血管内で微小血栓が多発して臓器不全、出血傾向がみられる重症疾患です。敗血症は、体のある部分で感染症を起こしている場所から血液中に病原体が入り込み、重篤な全身症状を引き起こす全身の感染です。

真菌感染症は、真菌によって引き起こされる感染症です。

手術・処置等の合併症は、手術や処置などの後、それらがもとになって起こることがある病気です。全ての患者さんで一定の割合で起こり得るもので、手術や処置等の際のミスで起きた疾患とは別のものとなります。

